

## 執筆者紹介

こいけ たかお  
小池 隆生 本学経済学部准教授

## 〈編集後記〉

本号では、「貧困認識」に焦点をあてた小池所員の研究成果である。農村的価値がみられる岩手県の2自治体に対して行われた生活意識調査のデータをもちいて、貧困原因、貧困イメージ、生活保護制度に対する権利性から、貧困認識の規定要因を分析している。筆者が「農村的生活様式」の特徴と指摘している日常的な「相互扶助的営み」の存在が、貧困認識に関連しているという分析結果は興味深いものであった。

2016～2030年の地球規模の目標を定めた「持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)」は、発展途上国のみならず先進国もが取り組む国際目標として2015年に国連サミットで採択された。このSDGsは、「誰一人取り残さない(no one will be left behind)」世界をめざし、17のゴール・169のターゲットを示している。その最初のゴールとして挙げられているのが「あらゆる形態の貧困をなくそう」である。この目標を達成するためにも、「貧困認識」の解明は意義のあることである。

(N.S.)

---

2018年9月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 宮 嵯 晃 臣

製 作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561

---